

第8回プロテオーム医療創薬研究会

実施日	2009年1月8日(木) 18:30~21:20
場所	横浜市立大学福浦キャンパスD1講義室
来場者	人数：学生及び研究者 21名
内容	<p>学生、大学院生及び若手研究者を対象にし、2名の若手研究者を講師とした講演会を開催した。</p> <p>1)「自然免疫活性化機序の解明と応用」 横浜市立大学医学部准教授 武下 文彦 自然免疫機構の解明は、免疫学において学術的に重要であるだけでなく、アジュバント、免疫調節薬、抗がん薬創出などの応用面でもきわめて重要である。これまでに得られた研究成果を詳細に解説した。また、得られた結果を利用した開発型医療研究についても紹介した。</p> <p>2)「難治性疼痛モデル動物の知覚神経系において発現が変化するタンパク質のプロテオミクスの解析とその機能の解析」 横浜市立大学医学部准教授 紙谷 義孝 末梢神経障害や癌の骨転移などによって生じる疼痛は治療抵抗性であるが、その成立には脊髄や後根神経節におけるタンパク質のリン酸化が深く関与していることが知られている。末梢神経障害や癌性疼痛モデルラットの末梢神経から大脳皮質にいたる知覚神経系でのタンパク質発現プロファイルやタンパク質リン酸化を網羅的に解析し、標的分子をいくつか同定した上でその機能を修飾することにより疼痛行動を抑制する研究について紹介した。</p>